

2021年度幹部社員研修成果発表会

2022.3.4(金)水戸京成ホテルにて



堀田先生



金井委員長



2021年度の幹部社員研修成果発表会が3月4日に水戸京成ホテルで開催されました。

昨年6月の1日研修を皮切りに、幹部の役割とは何か？自分の課題・自社の課題とは何か？経営理念を新入社員にどう伝えるかなど、各講義で出される課題に経営者と共に向きあい、自社の課題解決のための計画を策定し、実践して来ました。

本来であれば、全ての講義をリアルで開催し、同期との絆を深め合いながらの研修となるはずでしたが、長期化する新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、後半の講義はオンラインを取り入れながらの開催となり、繋がりを作りづらい状況での研修となってしまいました。そんな中でも、2019年度の幹部社員研修の0Bである(有)エターナルコーポレーションの立野博さん、(株)あおばの柴崎さんが修了生として各講座に参画してくださり、今期の受講生へ向けて、実践を踏まえたアドバイスを貰えることで、新たな視点での気づきや学びを得ることが出来ました。

発表会当日は、これまでの実践期間、どのような実践を重ねて来たか、どのように周りを巻き込んで来たか、経営者とのコミュニケーションをどう取って来たか、またその中で計画を大幅に変更したなど、それぞれから熱い発表がありました。

幹部社員研修は、幹部としての自分の役割は何かを自ら導き出し、自社の課題は何か、それを解決するために何をすべきかを経営者と共に実践していく、共育ちの研修です。発表会はゴールではなく、通過点であり、これらが新たなスタートとなります。受講生の皆さんのこれからの展望が楽しみです。

「社員と共に育つ土壌をつくる。」ぜひ、次年度の幹部社員研修にも沢山の会員企業の皆さんの参加をお待ちしております。

新入会員さんのご紹介



水戸支部

谷島 大輔さん

リラクゼーション・整体サロン
アクア∞リング
オーナーセラピスト



No.309号 2022年3月31日

DOYU IBARAKI



発行:茨城県中小企業家同友会
〒310-0851 水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館3階
Tel:029-243-8230
Fax:029-243-7225
Mail:info@ibaraki.doyu.jp

第22期経営指針発表会

2022.3.19(土)水戸京成ホテルにて



第22期経営指針を創る会の発表会が3月19日に水戸京成ホテルで開催されました。まん延防止等重点措置下ではありましたが、ホテルの協力もあり、感染対策を講じた上で、50名を超える参加があり、盛大に開催されました。

長期化する新型コロナウイルス感染症の拡大の中、こうした外部環境の変化のときにこそ、経営指針を成文化し、実践していくことで自社が強くなるという委員長の想いのもと、創る会のメンバーも一致団結し、受講生をサポートして来ました。

今期は9名の受講生が受講。講座は感染対策を取り、延期を繰り返しながらもリアルを追求して、全10講を終了することが出来ました。講師の伊藤先生も受講生との交流を深めるため、オンラインを活用した個別面談を行い、受講生の現状把握や助言などを行っていただきました。今期も理念・ビジョンを描くことに悩み、後半の方針計画の作成にさらに苦しむ受講生もいましたが、自分の殻を破り、思い描く指針書を作り上げることに奮闘していました。

発表会では、計画や方針の部分についてこれからまだまだブラッシュアップしていく必要があると決意表明する場面もあり、自分自身、そして自社と向きあうことで未来が開けるのだということを感じる発表会となりました。

第23期経営指針を創る会の説明会も開催され、永岡委員長からいよいよ、10年ビジョンを達成するという発表の中で、「理念・ビジョンを描いただけではダメ。ビジョンを達成するための道筋を描き、具体的な計画を立てなければいけない。それがビジョンを達成するためには必要不可欠との力強いメッセージがありました。」

最後に、茨城同友会の経営指針を創る会の基盤を作ってきた永岡委員長から、次期鎌倉委員長へのバトンタッチのセレモニーがあり、創る会は新たな船出を迎えます。自社の羅針盤を創り、ビジョンを達成出来る会社をつくりたいと思われた方、ぜひ第23期の経営指針を創る会に参加してください。



ここからがスタート!!

2月例会報告

水戸支部

2月22日(火) 茨城県総合福祉会館
 報告者:安部 徹さん 共栄通信工業(株) 代表取締役
 『私には命を掛ける覚悟がある。』
 ～成功の鍵は、やり方よりも在り方～



水戸支部2月例会は、水戸支部の共栄通信工業株式会社安部徹さんにご報告頂きました。感染予防を講じた上でリアル開催のみにも関わらず、21名が参加して開催されました。

報告では、あれが足りない、これが足りないという経営者が多いが、実は、皆さん解決策を持っており、解決する術も持っている。必要なものは全て与えられており、今、ある資源に目を向けて感謝し、スキルや自分独自の強みを活かす事が重要である。そして、大切なのは「やり方」ではなく「在り方」。うまくいかない人はどうしても新しいやり方を探しに行く。在り方がしっかりしていないと結局また新しいことを探しに行き永遠にノウハウ探しになってしまう。仕事は、人生を豊かにする「目的」ではなく「手段」。手段(やり方)と目的(在り方)の違いを明確にしないとこの間に目的(在り方)と手段(やり方)が入れ替わってしまう。という話や、安部さんの好きな言葉「まず、その存在に気づきそれを欲しいと強く願う本気で行動を起こせば大抵のものは手に入る。」に安部さんの行動力と覚悟の源泉を感じる事が出来ました。

これから会社が生き残っていくにはその業界での非常識でない生き残れないのではないかと。また、新たなチャレンジする時に出来ないという勝手に決めているのは、自分自身であることも例会を通して学ばせて頂きました。

新たなチャレンジの際に迷った時には、魔法のキーワード「それ、だれが決めたんですか？」をつぶやきます。また、今回は、グループ討論テーマが「明日からあなたは何にチャレンジしますか？」という事で、初の試みとして宣言という時間を設け明日から行うスモールステップの宣言を行いました。宣言する事で、今、置かれている現状を把握し、今回の例会を通して明日から具体的な問題に対してどう行動するのか？が明確になりました。(レポート:石田直也さん)

南西支部

2月28日(月) すず喜総合法務事務所・Zoom併用
 報告者:高橋 眞澄さん アイパイオテック(株) 代表取締役
 『最後のワンピースはビジョン』



南西支部2月例会は支部会員である高橋眞澄さんに報告頂きました。高橋さんは、就職するか？仏門に入るか？この二択からIT業界へ、就職。困難な出来事と出会い、起業を決意し1万円で起業した高橋さんは、「ITでお客様の仕事時間を少しでも短縮」できるようなシステム開発に取り組んできました。

やりたかったことが形になり、社員も増え、売上も右肩上がり的高橋さんですが、新たなビジョンが描けず、「何のために経営しているのか」「自分が本当にやりたいことは何か」自社のやりたいことと自分のやりたいこととのベクトルのギャップを感じはじめました。

経営者は、常に未来を描きビジョンを掲げ、社員とビジョンの共有に悩みますが、今回は、会社と経営者のベクトルのすり合わせで悩み、悩みの最中であっても、毎日会社は動いていきます。社員に問い、ベクトルのすり合わせで、社員からヒトをもらい、自分の在り方が少しずつ見えてきました。

社員に自分の給与の査定を聞いてという話や、高橋さん、売上も全て見える化、社員との寄り添い方は、学びが多くありました。グループ討論は「ベクトルを合わせる」というテーマで、ビジョンの共有がどうして必要なのか？自分は、会社の理念やビジョンとベクトルがあっているか？なぜ、ベクトルを合わせる必要があるのか？など、それぞれが自社と向き合い、学びを深めました。経営者は、ビジョンを掲げるだけでなく、ビジョン達成するために社員とベクトルの共有を図ることが、重要であることを再確認する例会となりました。高橋さん、報告ありがとうございました。(レポート:宇田川 真由美さん)

県西支部

2月18日(金) 境町商工会館

『経営指針』
 報告者:稲葉佳正さん 稲葉運送(株) 代表取締役



今回報告いただきました稲葉運送株式会社の稲葉社長は第19期経営指針成文化セミナーを受講されたことにより、自らの経営判断に自信がついたと話します。そして経営理念の位置づけとして『社長自身が、その理念の通り行動し続けなければならない。社員に対して伝えるのであれば社長が来ていなければならぬ。』と言い切る稲葉社長。その過去には大変な経験をされたと言ってくれました。2015年関東・東北豪雨による鬼怒川の決壊で事務所は床上浸水し、社員の車まで水没してしまいました。こんな状況に怒りのやり場のなかった社員たちは、当時専務だった稲葉さんに言い寄ったそうです。色々悩んだあげく出した結論は、被災した全社員の車を修理すると言い切ったそうです。その時が一番辛かったと話してくれた稲葉社長。今は指針を成文化したことで社内の風通しはよく、福利厚生面ではクリスマスには社員全員にケーキをプレゼントしたり、正月には社員の子供さんにお年玉をあげるなど配慮されております。これも経営理念である『報恩感謝 おかげさま、ありがとう』が浸透しているのだと思います。また稲葉社長は落語が好きだそうで、私たちへの語りかけにも感動を頂きました。ご報告ありがとうございました。(レポート:稲毛田 英樹さん)

ドラゴン支部

2月10日(木) Zoom配信

報告者:高谷 豊さん 高谷税理士事務所 所長
 『知らなきゃ損する税金の話』



ドラゴン支部2月例会は、税理士である高谷豊先生を報告者に迎えて、「知らなきゃ損する税金の話」と題して、税金に関する基礎知識について実例を交えながら、分かりやすく解説していただきました。参加者もドラゴン支部だけでなく、他支部からも多くのご参加をいただき、自社の現状を踏まえて、様々な質問が飛び交い、税金や節税に対する関心の高さが伝わって来ました。

特に、節税(タックスプランニング)について、中小企業がとるべき11個の節税方法の部分では、役員報酬や設備・人材への投資など、知っているようで知らない節税対策が沢山あることを再確認し、自社ではどのような対策が出来るかについて関連な意見交換も行われました。

高谷さんからは、「節税方法には、会社の状況によってメリット・デメリットがあります。自社の状況に合った方法を見極めて実施しましょう。」とのまとめがありました。

自社のお金の流れの現状を把握し、必要な節税対策など、出来ることから実践していこうと考え、行動に移す機会となりました。(レポート:青木 恵之さん)

【編集後記】会員の皆さまにはいつも会報誌作成にご協力いただきありがとうございます。震災後初めて福島原発近くの富岡町～浪江方面を通過する機会がありました。帰還困難区域の看板が重々しく、道路沿いの店舗の中は散乱したままの状態…民家には車もなく生活感のない街並みに言葉が出ませんでした。場所によっては新しい家が建ち、きれいに整備された学校や病院。その姿が、日常ではないくらい復興途中的だということを物語っているように思えました。TVでよく耳にする「震災の爪痕」。自分の目で見て感じる事の大切さを痛感しました。

被災地の方たちに私は今まで何が出来ただろう、これから何が出来るだろうという想いの中、偶然いわきFC大倉社長のインタビューを拝見しました。いわきFCは、震災地域であり震災があったからできたチームである。だから震災を忘れないために、チーム全員防護服を着て原発内部見学を行ったそうです。いわきFC発足当時は、新参者扱いされ、被災者でもなくせいに相手にされず非難やバッシングの嵐。それでも大倉社長は夢を語り続けました。「絶対にスポーツの力でみんなを笑顔にする！」と。その夢は一度もブレることなく今でも当時と同じく語っているそうです。いわきFCはJリーグ制覇や日本一になることを目標にしたチームではありません。スポーツを通じていわき市と双葉郡、さらにその沿岸地域を魅力ある街にするのが目的であるため、は「いわき市を東北一の都市にする」が理念のひとつに掲げられています。勝つことが目的でないから、チーム運営をするときも自らのことに悩まず、正しいやり方を貫きます。さらにいわきFCの示す具体的な指針のひとつに「倒れない」というのがあります。これはもちろん、サッカー選手としての正しい姿勢を示す指針でもあるそうですが、むしろ甚大な被害を受けた大震災に対しても「倒れず」に戦い続けたこの地域の人々の生き様をピッチで体現する、そんな思いが込められていて知り私は心を奪われました。

いわきFCPARKに行くと大型スクリーンの前に真っ赤なユニフォームを着た大勢のサポーター。目を輝かせながら全力で応援している姿を見て、大倉社長の夢を垣間見たような気がしました。今シーズンは絶対ホーム試合観戦に行きます!! (Shimo)

